



温暖化という言葉がテレビや新聞で頻りに耳にしますが、二月に入り、窓の外には今日も雪が深々と降り積もり、長靴を履いた患者さんが診療所の待合室で暖をとっています。ここは石川県の東南部、白山の北のふもとにある小さな診療所。

二〇〇四年に自治医科大学を卒業した私は、石川県立中央病院で二年間の初期臨床研修を行いました。その修了後からは県内を飛び回っており、〇七年四月からこの白峰診療所で働いています。

患者の悩み切実

初めて過す白峰の冬。学生時代にスキー部に所属していたことも手伝って、降り続く雪を

つじ くにひろ 国広 27期生、2004年卒



正面の建物が福祉総合施設「カルテット」。保育所、保健センター、診療所などが同じ施設内に設置されている

国民健康保険白峰診療所

【私の勤務地】石川県の白山のふもとの白峰は約1200年の歴史があり、江戸時代には幕府の直轄地だった由緒ある山村。診療所には医師1人、看護師2人、事務員1人が常勤する。近くには白峰温泉スキー場がある。

何げない会話に耳を傾け

見ながらワクワクしている自分にとっては全く珍しいことではあるのですが、白峰に住む人 ないらしく、「先生、昔は窓が降ったんよ。まだ降ってないほ

うや」と諭されます。どうやら、県内一の豪雪地帯でも温暖化といっのは人ごとではないようです。

春の訪れを信じ

白峰の冬は十一月ごろから四月ごろまでと長く続くのですが、地域医療にも厳しい冬の時代が訪れようとしています。医師不足や、高齢社会に伴う社会保障費の増大等の諸問題は、この山村の診療所にも影響を及ぼし始めています。〇五年に白峰村は市町村合併により白山市の一部となりました。診療所も〇八年度から経営母体を変更することが決定しています。現在は職員一同、その対応に追われる日々が続いています。

「婆ちゃんが、もの忘れひどくなったんで、病院連れて行きたいんやけど、行きとやないと言うんやけど、どうすりゃいいかね?」。診療室で交わされる何げない会話ですが、家族の思いが詰まっています。悩みを訴える患者さんの思いは切実です。簡単に解決できることばか